



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

日本海区水産研究所



<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp>

役割

対馬暖流によって、暖かい海水が日本海に流れこみますが、深さが300mを超えるととても冷たくなり(日本海固有水と呼ばれます)、水深の深浅による温度差の大きいことが日本海の特徴のひとつと言えます。これにより、広い海の海底から海面まで、浅海から沖合の様々な場所に、暖水性から冷水性の多種多様な魚介類(水産資源)がくらし、また、季節とともにやって来ます。日本海の長い海岸線のいたる所に、地域に貢献する水産業が営まれるゆえんです。

対馬暖流の流速や流路の変動が、水温の水平分布を大きく変化させるなど、海洋の動きは、魚介類の回遊はもとより、餌生物の質と量、生まれたての卵稚仔の生き残りにも大きく影響します。増養殖の面から見ると、日本海沿岸は仔稚魚の育成場となる干潟域が少なく、また、冬期の波浪

が激しいため、他海域に比べて、魚介類の増殖施策や養殖が難しい海域が多くなっています。

このような条件のもとで、海洋・河川環境、資源の特徴、産業の形態に応じた、より効率的で合理的な水産業を実現する一助となるべく、関係道府県の水産試験研究機関等と連携しつつ、以下の研究・技術開発に努めてまいります。

- ① 浅海から沖合までの海洋環境の把握、地球温暖化など環境変化が海洋生物に与える影響の推定
- ② 重要魚介類の資源評価の実施と精度向上、より効率的・合理的な資源管理・漁業操業方法の開発、サケの放流技術の開発と普及
- ③ 初期餌料生物の育種と保存や親魚育成手法など増養殖に必要な基礎技術の開発、など

沿革

- 昭和24年 6月：石川県七尾に水産庁日本海区水産研究所設立
- 昭和27年12月：新潟県新潟市万代島に移転
- 昭和40年 4月：現在の新潟庁舎に移転
- 平成13年 4月：水産庁研究所が統合され、独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所に組織改編
- 平成18年 4月：組織改編により、日本海区水産研究所でさけます資源に関する調査・技術普及を開始
- 平成23年 4月：日本海区水産研究所に宮津・小浜・能登島栽培漁業センターが統合
- 平成26年 4月：能登島庁舎の業務を宮津庁舎に移転
- 平成27年 4月：法人名称が「国立研究開発法人水産総合研究センター」に変更
- 平成28年 4月：組織改編により、法人名称が「国立研究開発法人水産研究・教育機構」に変更

組織



資源管理部

スルメイカ、ズワイガニ、ブリなど、日本海の美味しい魚介類をいつまでも食べ続けていただくために、今どれくらい漁獲するのが望ましいのか？ 資源管理の科学的根拠になる資源評価を実施し、その精度向上に努めるとともに、サケ資源に関する調査を行います。また、資源管理や漁業操業をより効率的・合理的にするため、いつ、どこに、どのような漁場が形成されるか、漁具や操業方法をより効率的・合理的にできないか、漁船に回収されないまま放置された漁具による不合理漁獲にどう対応するか、どんなサケ稚魚をどう放流するのが本州日本海側の地域特性に合っているのか、などを検討し、成果を公表・普及します。



スルメイカ



ズワイガニ等底魚類資源調査



沿岸域での幼稚魚調査



サケ仔魚

資源環境部

海洋環境(水温・塩分・海流・栄養塩・底質などの物理・化学環境とプランクトン・ベントスなど餌生物の種類・量などの生物環境)の年々の変動や地球温暖化による長期的な水温の変化が、魚介類・藻類の量や分布にどのような影響を与えるのか？ この問題に対して、水産業が環境の変動・変化にうまく対応するために、海洋調査・観測、数値モデル実験等により、将来の魚介類・藻類や棲息場の状態を予測する手法などを示します。また、漁業に甚大な被害を及ぼす大型クラゲの大量出現や急潮と呼ばれる突発的な速い流れの発生など、日本海の水産業に大きな影響を与える問題にも取り組みます。



調査船による係留系設置作業



有用な餌生物(尾虫類)



日本海に広く分布するツルアラメ

資源生産部

日本海の沿岸浅海域から水深約200mの陸棚域では、様々な漁業が営まれています。その沿岸域を対象として、そこに生育する多様な水産資源を積極的に増やし、合理的に利用するための研究を行います。また、様々な魚介類の飼育実験と天然海域での初期生態調査を行い、仔稚魚や幼生の成育に適した環境や有用な餌料を明らかにし、より効率的で経費の安い種苗生産技術と養殖技術を開発します。海産魚の種苗生産の初期餌料として不可欠なシオミズツボワムシについて、複数の株(種)を保存しながら、さらに有用な品種を作出する技術の開発に取り組みます。



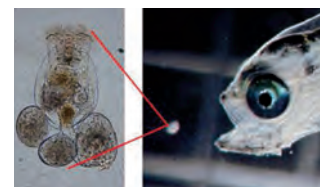
イワガキ



アカアマダイ



アカムツ



シオミズツボワムシ

業務推進部

各部が行う業務を支援する部署として、施設、労務と予算執行の管理、コンプライアンス、環境への配慮の推進、情報セキュリティの確保、研究成果の情報発信、水産業を取りまく社会情勢と研究ニーズの把握、関係機関等との連携協力等に関する業務を行います。

漁業調査船みずほ丸



みずほ丸は日本海において、海洋観測及び漁業資源調査を行う漁業調査船です。様々な漁撈設備ならびに調査機器を搭載しています。

昭和56年に竣工し、平成6年3月に定員増及び航海計器、観測機器等の改造をしました。

- 長さ(全長):38.51m
- 幅:6.80m
- 深さ:2.90m
- 総トン数:156トン
- 航海速力:約10.60ノット
- 最大搭載人員:23名

日本海区 水産研究所 各庁舎へのアクセス

Japan Sea National Fisheries
Research Institute
ACCESS

新潟庁舎



〒951-8121 新潟市中央区水道町1-5939-22
TEL: 025-228-0451 FAX: 025-224-0950

【アクセス】

JR新潟駅から、タクシーで約15分、または新潟交通バス利用
・西循環線浜浦町先回り西部営業所行きで「岡本小路」(20分)下車、徒歩5分
・新潟青陵大学経由水族館前行きで「新潟青陵大学前」(25分)下車、徒歩1分

小浜庁舎



〒917-0117 福井県小浜市泊26
TEL: 0770-52-2660 FAX: 0770-52-2661

【アクセス】

・JR小浜線「小浜駅」下車、タクシー約15分
・舞鶴若狭自動車道「小浜IC」から約10km

宮津庁舎



〒626-0052 京都府宮津市小田宿野1721
TEL: 0772-25-1306 FAX: 0772-25-1307

【アクセス】

・北近畿タンゴ鉄道「宮津駅」下車、タクシーで約15分
・京都縦貫自動車道「宮津天立IC」から舞鶴方面へ約10km約20分